



「センター」の隣、やまと公園に凜とした円錐形のメタセコイアが10数本立っている。西側プロムナードにも木立はそろっていて、清々しさを感じる。

あの手この手で考えて、あの手この手で問題解決！

あの手 この手

2013
1
月号

あの手この手のマークの間のSは solution(解決)のSです。

大和市民活動センター[拠点やまと] 第66号 2013年1月4日発行



やまと国際フレンドクラブ(IFC)主催

『第5回やまと国際アートフェスタ』入賞作品

IFC 賞・3回シリーズ(その1)

世界に広げよう！ 絵がつなぐ笑顔の輪！

昨年11/3(土)4(日)にイオンホールで開催しました。

応募者も年を追うごとに増え、391点の作品が集まりました。

今回のテーマは、「世界に広げよう！」。子どもたちが世界に広げていきたい想い、未来への希望など、素敵な絵が展示され、来場者も今までで最高の1,500名でした。

絵・「心をつないで」 渡邊あんな(西鶴間小6年)

渡邊あんなさんからのメッセージ

「心をつないで世界が一つになってほしい、そしてどの国も笑顔は同じで、だれもが幸せになれるものだ」という想いと願いをこめました。

家族揃って来場し、記念撮影をしていく子、「もう次の絵も決めてるんだ」と話す子もいて、毎年楽しみにしてくれている様子が伝わり、私たちも思わず笑顔になりました。

やまと国際フレンドクラブ(IFC)会長 長谷部美由紀

新たな年に気持ち新たに！

なかなか先が見えない安心できない社会で、それぞれが課題を感じ、解決していこうという市民活動は希望の光です。「センター」が使命を終え、解散できるのが理想ですが、なかなかそうはいきません。

今年も市民活動センターは皆さまと共に、市民活動を応援していきます。[拠点やまと]会長 関根孝子



*「あの手この手」は大和市民活動センターのHPではカラーでご覧になれます。

12/18(火)第 56 回を開催
しました。

連続共育セミナー

ファシリテーター

テーマ:会議上手になろう! ~会議進行役がポイントです~
講師:青木将幸氏(青木将幸ファシリテーター事務所代表)
会場:大和市渋谷学習センター 310 講習室

ワークショップ形式で講座を進めたいと講師からの希望があり、参加者は 18 名に限定。講師の HP、広報やまと、「センター」のチラシなどで集った人々。先着順で早めに締切。

会議は、バランスをみながら進める。

「質問・発言はいつでも歓迎」みなさまのためのセミナーですから」と一言から始まり、時間順守で終る。

「会議で後ろ向きな意見にひっぱられる」との団体がかかえる問題点が出され、講師は次のように応えた。

それには、その意見を出しきらせる。あなたの意見は『理解しましたと返し』、その発言に『感謝を伝える』。そして、要点を『板書』する。前向きな意見が出やすいように併記できるようにし、発言のバランスを図る。そして『少数派の意見をくみ取る微修正』をして活かす。

その他、いろんな事例を引合いに、キーワード『』を明らかに示しながら説明された。

ワークショップは 4 グループに分かれ、初対面同士でしたが、席替えしないこともあって会話はスムーズ、学ぼうとする意欲が会場内に満ちていた。

受講者からは収穫の多い講座だったと好評だった。講師著書*は用意した分はほとんど売れ、サイン会。記念撮影へと繋がっていた。

*著書:市民の会議術ミーティング・ファシリテーション入門
発行所:ハンズオン! 埼玉 出版部

[拠点やまと]スタッフ 7 名も

グループワークに参加しました。

「普段の会議」と「こんな会議になったらいいな」をグループ内で紙に書き出す。

[拠点やまと]は毎月第 4 火曜日に運営会議を行っています。その現状をみて、次のような改善項目が書き出されました。

- 1、参加者全員がしっかり議論できたらいい。
- 2、しっかり議論して予定の時間に終わらせたい。
- 3、継続も含め、結論を出したい。
- 4、自分の希望をはっきり言える会議の雰囲気になったらいい。

次に、全員が合意できるものに花丸をつける、ということで 2、に花丸をつけました。

それを会議のレジメの頭に記載するなど効果的に活用していくことにした。

会議の準備資料、出席者の議題への取組み準備や共有など、実施する具体的なことが課題となります。



高度な質問が多く講座は充実して良かった。終って、みなさまの拍手をいただき、話が伝わったと感じ、短い時間でしたが、感謝です。



講師
青木将幸氏

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

次の第 57 回連続共育セミナーは、

テーマ:3 月。年度末を控え、活動報告のとりまとめ作業を行います。NPO 法人を含む市民活動団体として質の高い報告書作りを学ぼうと思います。(講師を探しています)

日 程:3 月中旬を予定。

・次号の「あの手この手」2 月号に日程などをお知らせします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<参加レポート>

県内 NPO 支援組織が交流を深める

NPO 支援組織のための研修会 in 湯河原 2012

主催:ソーシャルコーディネートかながわ(以下、そこかわ)

11/25(日)・26(月)に、かながわ県民活動サポートセンターの事業として、行われた今回の研修には、藤沢、平塚、綾瀬、小田原など県内の各 NPO 支援組織のスタッフや県職員などおよそ 20 名が集まりました。

初日の講義では、認定 NPO 法人日本 NPO センター特別研究員の椎野修平さんを招き、かながわ県民活動サポートセンターの設立からその後の運営までの秘話を事例に、NPO 支援組織のあり方について考察するきっかけとなりました。

また、翌日のディスカッションでは各施設において NPO 支援活動を実施するにあたって直面するさまざまな課題、特にリスクマネジメントや活動の活性化などをテーマに各施設での事例を交えながら意見交換を行いました。

合宿で行われた今回の研修では、こういった正規プログラムのみならず深夜遅くまでお互いの経験や考え方を話し合い、交流を深め今後の連携を考える時間となりました。

(来年度より勤務スタッフになります)記・姜そんう



“田名駅から濡れずに行ける” 田奈ステーション (田園都市線)

12/19(水)「青葉区区民活動支援センター」訪問

横浜市青葉区が運営している青葉区区民交流センター田奈ステーション内に伺い、嘱託勤務の女性おふたりから組織、業務や企画についてなど活発に情報交換ができました。

駅の脇、周囲に広場・駐車場・郵便局・交番・東急ストア・レストラン・コンビニと 気楽に寄れる “地の利” にあわせて、明るい館内の雰囲気が印象的でした。

「生涯学習センター」と「市民活動センター」を併設した幅広い活動に “マッチング” や “人材登録” を組み込んだ運営は参考にしたいところです。

「区民交流センターまつり」に小学校～大学のサークルが参加したり、「国際交流ラウンジ」とのスタッフ交流、一般の会社・病院や地域自治会が名を連ねていました。舞台進行や司会者が登録団体から手を挙げる 市民参画に根を下ろした実践を聞いてきました。

(拠点やまと/望月則男)

地縁組織も巻き込んで「地域の和」を実現

年間一大イベント「区民交流センターまつり」は、実行委員会に連合自治会、国際交流ラウンジ、登録団体が参加していてNPOと地縁組織である自治会が無理なく繋がっているようです。

まつりのテーマ「田奈から広がる地域の和・世界のわ」が実現しているよう。自治会を巻き込むところは取り入れていきたいところです。 (市民活動課/村山真弓)



★訪問した他市「センター」

- 7 / 9(月) 鎌倉市市民活動センター
 - 7 / 13(金) おだわら市民活動サポートセンター
 - 8 / 23(木) 茅ヶ崎市市民活動サポートセンター
 - 9 / 11(火) 横須賀市立市民活動サポートセンター
 - 11 / 7(水) 藤沢市市民活動推進センター
 - 11 / 22(木) さがみはら市民活動サポートセンター
- 今回の横浜市青葉区区民活動支援センターと7か所。

次の期のために運営の在り方を再考します。

訪問先にはお忙しいところ貴重なお話や資料をいただき、ありがとうございました。

大和市民活動センターは「運営は市民等が担う」という条例に基づき、市民と行政が互いの役割分担を決め協働事業として運営しています。

「運営委員会」で4年、[拠点やまと]で2期6年。次の期のためにこれまでをふりかえり、運営の在り方を検討していきます。[拠点やまと]会長 関根孝子

今年はいまは みんなの参加できれいになりました。

12/28(金)に大掃除&交流会

屋根の落葉を集めて700入りのポリ袋12袋。投げおろすと袋が破裂するので、片手ではしごをつかみながら1袋ずつ下ろしました。

食器棚、冷蔵庫をきれいにするのが楽しい。まかせて！



大掃除を終えてお茶飲み話。つながらの輪が広がりました。

「センター」を利用している8団体13名が参加

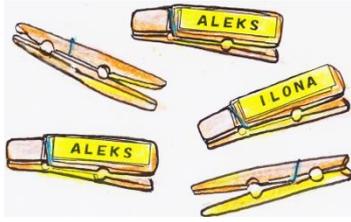
シネマ・サークル、大和南京玉すだれの会、ナルク横浜オオカミ協会、W.Co カルチャーつま、詩吟の会、大和さくら会SST勉強会、大和北部おやこ劇場

駐車場、外周、窓ガラスの内側外側、蛍光灯、エアコン、会議室床のモップかけ、給湯室などの清掃をお願いしました。家事のベテランが集合し、細かいところも見違えるほどに、きれいになりました。感謝！

「センター」のある日ある時

12月18日(火) 曇り

ボランティアの富沢さんが先日、たくさんの生の「どんぐり」とペイントして作った「どんぐり」の置物をもって来られた。(ペイントする前には、中に虫がいるので煮沸すること。)
今日、生の「どんぐり」を、そのままにして置くと、6か月ぐらいしたら虫が出てくるかもしれないと、こまやかな配慮とアドバイスに来館されました。これからは、工作でびっくりしないで済みます。



明けましておめでとうございます。2013年。新しい年が始まりました。
大和市民活動センター[拠点やまと]が制作発行する
月刊広報紙「あの手 この手」。

2013年1月号(第66号)をお届けします。

フィンランドのある保育園を訪問したとき(2012年9月)、洗濯バサミの一つひとつに名前のプレートが貼ってあって、名前ごとにまとめてたくさん置いてあることに気がつきました(上のイラスト参照)。

日本の幼稚園・保育園では、入園の際に子どもの持ち物すべてに記名します。そうか、この洗濯バサミも同じように、個人所有のもの、例えば靴などをこれで挟んでおく。つまり「保育園便利グッズ」だと、ひとり勝手に判断しました。

さて、保育室に入ってその洗濯バサミの役目を見たとき、積み木あそびをしている絵には4人の子どもの名前の洗濯バサミが留めてある。外あそびの絵にはふたつ。「?」のところにはひとりの名前(下のイラスト参照。実際にはあそびの種類別の絵は他に4つあり)が留めてある。これはどうも「所有宣言の洗濯バサミ」ではなさそうだと見ていたら、この保育室担当の先生が説明してくれました。

「今日はなにをしてあそびたいのか、一人ひとりの子どもに聞き、やりとりをしながらあそびを決めていきます。どんなあそびをしたいのか、最終的に決めるのはあくまでその子どもです。決めたら名前が付いている洗濯バサミをそのあそびの絵のところに留めます」と。

話を伺って、「ぼくはこのあそびを自分でしっかり選んだ」という子どもの意志の表れを感じました。「ところで[?]マークは？」の質問には「いくつかあるあそびの絵には納得できるものがないという場合、[?]マークを選び、希望するあそびを先生に言います」との答え。

日本の幼稚園・保育園では、あそぶことまで、みんなと同じようにさせようということに保育の価値を置くことがありはしないか。「一斉保育」「指導強化」「周知徹底」。こんな四文字言葉が大手を振ってまかり通る保育や教育の現場を思い浮かべました。

自分らしさを選択できる権利、あくまで子どもの判断が尊重される環境、「私」が育つ基礎をフィンランドの保育園での「洗濯バサミ」から見たように思いました。

今号は前号に続き「フィンランドリポート」<その2>になりました。 記・小杉皓男[拠点やまと]広報係 2013/01/03



イラスト: 望月則男